

保安防災・労働安全衛生

保安防災

安全確保と安定操業、保安力向上を目標に、製造事前評価におけるリスクアセスメント、プロセスKY(危険予知)、設備KYを実施しています。その結果、2017年度は爆発・漏洩等の事故はありませんでした。

工場、研究所ならびに関係会社では、各箇所の立地や地域性を考慮して総合防災訓練、地震防災、初期消火、連絡通報などの各種訓練を毎年実施し、緊急時あるいは事故発生時に確実な対応が取れるように備えています。

また、安全文化評価により抽出された課題に対して、各箇所で改善への取り組みを進めています。



▲防災訓練

TOPICS

トレーニングセンターによる安全教育

富山工場内にトレーニングセンターを設置し、勤続10年以内の若手従業員を対象に、設備に関する基礎や作業の方法を指導しています。講師は富山工場の機械・電気・計装の保全部門の従業員が務めており、教育用の機器の模型を使いながら、実際に手を動かして作業をさせて、安全な作業方法の大切さを教えています。1991年から実施されているこの研修は、他工場からの参加も受け入れており、社内全体の安全意識の向上に寄与しています。



労働安全衛生

当社は、労働安全衛生に関しても、RCマネジメントシステムにて、PDCAサイクルを回す継続的改善によって、労働災害の防止、労働者の健康増進、快適な職場環境の形成に努め、各事業所の安全衛生レベルの向上を図っています。

労働災害が発生した事業所では、徹底した原因究明を行い、応急対策および恒久対策を計画、実行します。これらの情報は労働災害報告書としてまとめられ、日産化学グループ全体において情報共有、横展開に取り組むことで、類似災害の予防に努めています。

さらには安全監査を通じて協力会社における労働災害発生防止にも取り組んでいます。

また、2016年度から厚生労働省のあんぜんプロジェクトへの参加や労働安全に関する情報発信の方策の一つとして労働安全新聞の発行を開始し、安全活動への啓蒙に努めています。

あんぜんプロジェクト

あんぜんプロジェクトは、労働災害のない日本を目指して、働く方の安全に一生懸命に取り組み、「働く人」、「企業」、「家族」が元気になる職場を創るプロジェクトです。



▲労働災害報告書例



▲労働安全新聞(労働災害月報、無災害継続日数)例

安全成績

2017年度は当社において、1件の休業災害と9件の不休災害が発生しました。休業災害は前年度と同数、不休災害は増加しました(+6件)。これらは、蜂刺されの増加や化学物質による薬傷によるものでした。リスクアセスメント、作業前KYやKYトレーニング、HHK(ヒヤリ、ハット、キガガリ)活動、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)、適切な保護具の着用を推進し、安全常会や労働安全新聞等により安全に対する意識を向上する事で、労働災害ゼロを目指します。また、落下、転倒防止等の設備の安全化対策として、2016年度からの3年間で総額350百万円の投資を計画しています。

